

# 交通安全の 教育・普及活動

現代のモビリティ社会において人々が安全に暮らすためには、クルマの安全性能の向上はもちろん、運転する人々の交通安全に対するマインドやスキルの向上、さらに歩行者や子ども達に対する安全教育も大切です。Hondaは、クルマに乗っていない人の安全も視野に入れたクルマづくりを行い、あらゆる角度から研究を重ねながら、商品の安全性を可能なかぎり高めることに取り組んでいます。同時に、安全運転や交通安全の普及活動を通じて、より豊かなモビリティ社会の実現をめざしています。



Together for Tomorrow

読んで、聞かせて、楽しく学べる

「交通安全キャラバン」



幼い子どものための、交通安全教室

Hondaは、安全快適な交通社会の実現をめざし、各地でさまざまな取り組みを行っています。中でも、クルマと共存する現代社会において、子ども達を交通事故から守ることは、重要なテーマのひとつです。Hondaは、人間形成に大きな影響を与える幼児期から交通安全の基本を身につけてもらうことが大切であると考え、未就学児を対象とした「交通安全キャラバン」をスタートさせました。この交通安全教室の特徴は、トレーニングを積んだ俳優が進行役をつとめ、子ども達を飽きさせないさまざまな工夫がされていること。子ども達は、楽しいやり取りの中から自然に交通ルールを学ぶことができます。

1,000を超える幼稚園・保育園を訪れました

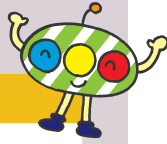
1999年に関東地区から始まった「交通安全キャラバン」は、2003年に鈴鹿、浜松、翌2004年には熊本、栃木の各地域でも活動を始め、いまでは事業所のあるすべての地域で開催しています。2005年には、340の幼稚園・保育園を訪問しました。



進行役は、俳優のお兄さんとお姉さん



元気いっぱい答える子ども達



## プログラム構成



絵本の読み聞かせの後、交通安全のお話



身振り手振りを交えて覚えます



最後は、子ども達だけで横断体験

## 見て、聞いて、話して、体験するプログラム

### 1. 名作絵本の読み聞かせで、集中力アップ

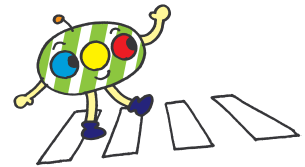
「交通安全キャラバン」は、プロの俳優であるお兄さんとお姉さんが進行役となり、名作絵本を子ども達に読み聞かせすることから始まります。この読み聞かせは、子ども達の集中力を高めるのに効果的。絵本をスクリーンに映しながら、さまざまな声音と迫力満点の演技で子ども達をどんどん物語の世界へと引き込んでいきます。

### 2. オリジナル教材を使って、交通安全のお話

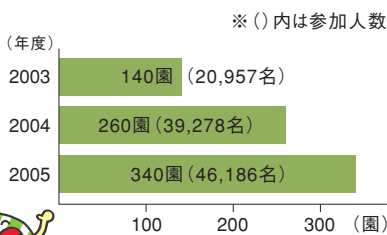
読み聞かせで子ども達の集中力が高まったところで、Hondaオリジナルの教材「あやとりい ひよこ編」を使った交通安全のお話が始まります。ここではただ話して聞かせるのではなく、クイズなどで対話しながら子ども達から答えを引き出し、「手をあげる」など身振り手振りの動作も加えて実践してもらいます。

### 3. ミニチュアを使って、体験学習

復唱しながら交通ルールを覚えたあとは、ミニチュアの信号機と横断歩道を使って、実際に横断してもらいます。本物と同じように作動する信号機で、横断途中で青信号が点滅しはじめた時はどうするのか、渡る前に青信号が点滅した場合は?など実際の状況を想定した体験により、子ども達は交通ルールを体で覚えます。



## 訪問園数の推移



### 2005年度

事業所	訪問園数	参加人数
本社	240園	31,391名
鈴鹿	30園	3,963名
浜松	30園	5,258名
熊本	20園	2,552名
栃木	20園	3,022名
計	340園	46,186名

## Hondaオリジナルの交通安全教育プログラム「あやとりい」

「あやとりい」は、「あんぜんを」「やさしく」「ときあかし」「りかいしていただく」、子ども達のための交通安全教育プログラムです。交通安全キャラバンで使用する、4～5歳児が対象の「あやとりい ひよこ編」



では、子ども達の興味をひくイラストやクイズを通して、親子が対話を楽しみながら、交通行動の基本やマナーを学ぶことができます。

## 技術より意識を高める交通安全指導

### 「HART (Honda Australia Roadcraft Training)」

ホンダオーストラリア  
Honda Australia Pty., Ltd.



### 危険の原因を認識すれば、衝突は起こらない

ドライバーやライダー、その同乗者、歩行者など、道路を利用するすべての人の安全のために、1999年、HARTを設立しました。HARTの提供する交通安全教育のテーマは、“ストリートスマートテクニック”（賢い道路の利用法）。ほとんどの衝突事故が、ドライバーの判断ミスによって生み出されることから、HARTでは、高度な運転技術を教えるのではなく、事故のリスクを下げる考え方やテクニックを集中的に指導します。レースレベルの運転技術を取得するより、車両のコントロールを失うような危険な状況そのものを作り出さない判断力と技術を習得したほうが、安全は高まるのです。HARTのトレーニング施設は、シドニー近郊の広大な天然林の中にあり、2kmにわたるサーキットトラックやオフロード用トラックを備えています。子どもからお年寄りにいたるまで、さまざまなプログラムを用意し、オーストラリア道路交通局が掲げる「2010年までに現在の事故件数を半減する」という目標達成に向けて、積極的に協力しています。このようなHondaの安全に対する取り組みは、現在、20カ国、26の現地法人が中心となってすすめています。

#### HARTのプログラム

##### ● 児童・学生対象の教育

小学5、6年生と高校2年生が対象。知識と実践で交通安全への意識を育みます。

##### ● ドライバートレーニング

免許取得中の人、25歳以下のドライバー、仕事に車を使う人など、それぞれに必要な安全運転のための対応力を養います。

##### ● ライダートレーニング

免許取得中の人から上級者にいたるまで、オートバイの運転技術を危険回避とリスク管理の理論とともに指導します。

##### ● レクリエーショントレーニング

オフロードコースで、4WD車やバイクの操作を指導します。

## 理想的なモビリティ社会を探究する

### 「(財)国際交通安全学会

IATSS (International Association of Traffic and Safety Sciences)



#### 2005年度の主な活動

##### ● 研究調査活動

交通とその安全に関わる研究調査活動と研究報告会の開催

##### ● 出版活動

「IATSS Review」「IATSS RESEARCH」等の広報出版

##### ● 褒賞活動

第27回国際交通安全学会賞の贈呈

##### ● シンポジウム活動

「ISSOT 2005」など幅広くシンポジウムを開催

##### ● 国際交流活動

IATSSの年間活動報告をまとめた英文年報「IATSS ACTIVITIES」を発行

### 各界の知識を集め、交通問題にアプローチ

(財)国際交通安全学会 (IATSS) は、交通社会の課題や将来のあり方について社会的視野に立ち、自由に討議・研究する場として、1974年にHondaの創業者である本田宗一郎、藤澤武夫両氏およびHondaの基金をもとに設立されました。さまざまな分野のトップに立つ有識者を会員とし、交通やその安全に関する調査研究および研究報告会の開催や政策提言、広報出版、交通社会の発展に寄与した業績に対する褒賞、国際交流など、時代の要請に即応した事業活動を展開しています。

### 将来のリーダーを育成するIATSSフォーラム

1985年に設立されたIATSSフォーラムは、将来のASEAN諸国の発展に貢献できる若者を招請し、“Thinking and Learning Together”をモットーに、広く社会全般の文化や日本について学んでもらう国際交流プログラムです。各種セミナーやフィールドワーク、地域国際交流など幅広い分野の講座や活動を行い、参加研修生が互いにASEAN諸国について理解し、ASEANと日本の現在の課題に取り組む場を提供しています。

## 交通に関わるすべての人の安全のために

### 「安全運転普及活動」

Hondaは、より安全な商品づくりに加え、正しい乗り方、楽しい使い方の普及というソフト面を通じ、より豊かなモビリティ社会の実現をめざしています。運転する人への教育・啓発活動や交通安全教育ソフトの提供、教育機器の開発など、1970年から安全運転普及活動に取り組んでいます。

#### ● 交通教育センターの活動

全国8カ所にある交通教育センターでは、免許取得者をはじめ、小さな子どもから高齢者にいたるまで、さまざまな年齢層の方を対象に交通安全教育を行っています。また個人だけでなく、企業向け参加体験型の研修も実施。近年は、アジアを中心に各国へ交通教育センターのインストラクターを派遣し、指導者養成やドライバー教育を行っています。

#### ● 研究・開発活動

交通安全教育の効果をさらに高めるために、ドライバーを対象とした新しい教育プログラムの開発を進めています。教育の基本的な考え方は、「教え込む」のではなく、問題点に「気づいて」もらうこと。ドライバーは、実走行診断やシミュレーターを使ったプログラムで自分の運転を客観的にふりかえり、課題を見つけ、運転行動を改善していきます。

#### ● 地域との連携

幼児から高齢者まで幅広い年齢層の方を対象とした、交通安全の生涯教育を地域に広げるお手伝いをしています。鈴鹿市と協力して開発を進めてきた交通安全教育プログラム「あやとりい」に新しく、高齢の歩行者、自転車利用者向けの「あやとりい 長寿編」が加わりました。また、5回目の開催となる、教習所の指導員を対象とした安全運転競技会を実施しました。

#### ● 海外活動

海外でのHondaの安全運転普及活動は、20カ国26の現地法人が中心となって進めています。中国では、広州本田が安全運転の模範となるドライバーを育てるために、従業員を対象とした安全運転教育をスタート。ロシアでは日本でも行われている「レインボーディーラー制度」(P41参照)を導入する予定。アジアでの二輪の安全運転普及活動もさらに広がっています。



小学生向けの自転車講習



シミュレーターで弱点をチェック



「あやとりい 長寿編」の安全教育



ベトナムでの安全運転普及活動